

トスカが殺害を選択できた理由

電気電子情報通信工学科 1年 Y.O.

『トスカ』の第二幕の最終盤でトスカがスカルピアをナイフで刺し殺すシーンがあるが、このシーンを見てふと疑問に思った事がある。それは「なぜトスカがスカルピアを殺せたのか」である。たしかにあのような切迫した状況ならばトスカにはナイフを使いスカルピアを刺すという選択肢しかない。だが、私が疑問に思ったのは正確には「トスカがそれを選択した理由」ではない。「スカルピアが、トスカがその選択をできる状況を作ってしまった理由」である。

スカルピアの特徴といえば、偽善者で、時には人を利用して残忍で冷酷な事をやっけてしまう完全なる悪。だが、人を利用したりすることで目的（それがどのような事でも）を果たせるということは、スカルピアは頭の回転が速いということでもある。頭のキレる人であれば、ナイフを放置すればトスカがナイフを使い反撃してくることも想定できたのではないだろうか。仮にも警視総監まで上り詰める事ができているので、詰めが甘いような人間ではないはずだ。それでもスカルピアがこのようなミスをした理由として次の考察を述べたいと思う。

これはスカルピアのトスカに対する信頼である。トスカといえば、「清く・正しく・美しく」の言葉が似合う、信心深い恋人には嫉妬深い一面もみせる、隠し事ができないほど汚れのない女性である。これはおそらく彼女を知るものには周知の事実だろう。そしてスカルピアは、トスカを利用してアンジェロッティの居場所を突き止めようとしたことからほぼ確実にトスカの性格を知っていたはずである。このトスカの性格から、スカルピアはトスカがナイフを使い反撃するという選択の考慮を意識的か無意識的か排除していたと推測できる。極端な例だが、もしトスカがそのような性格ではなく、傷害罪などの前科を持つ感情的で暴力的な人間であったならば、ナイフを放置することはなかっただろうし、ナイフを片付けても多少の警戒はしただろう。つまり、スカルピアは一切警戒しないほどトスカの性格を信頼していたのである。しかしトスカは自制を上回るほど精神的に追い詰められていたのだった。恋人のカヴァラドッシが捕まり拷問を受けた事を始めとして、カヴァラドッシを救うためにカヴァラドッシとアンジェロッティを裏切る、カヴァラドッシにアンジェロッティの居場所を教えてしまった事を知られ罵声を浴びる、カヴァラドッシが処刑されることになる、カヴァラドッシを救うためにスカルピアに体を求められる、といった今まで体験してこなかったであろう体験を数時間のうちに1度に体験してしまう。これはトスカを精神的に追い詰めるには十二分な要素だ。また、「汝殺すなかれ」「復讐するは我にあり」という聖書の言葉があるが、『トスカ』ではこの言葉が全く遵

守されていない。私は、宗教は人を精神的にコントロールできるものだとして解釈している。しかし、宗教のコントロール以上の強いショックを受けることで今回のトスカのような結果になってしまったのだろうと分析している。

この結果はスカルピアだけでなく、何の事前の知識も無く、悲劇を見慣れていない、トスカを初めて見るオペラ初心者にも想像し難い選択であったはずだ。